



待合室を「まんまる」に

12月×日

2か月に1回の診察も終わった。まあ、診察というよりも、単なる近況報告というか、お互いのぼやきの時間というか。でも、やっぱりそれはそれで大切な時間だな。さて、ここからは「まんまるの会」だ。気合いを入れて行かなくちゃ。なにせ今日はクリボ一*だ。そう言えば、新しい人がくるとかいう連絡があったなあ。新しい出会い、ちょっと緊張するけどワクワクするな。

* * *

「まんまるの会」とは、関西医科大学附属滝井病院のGIDクリニックの受診者の会のことです。病院近くにある授産施設「Slow Food まんまる」で開催していることと、受診者同士の輪と絆を深めたいという思いから、この名前になりました。

わたしは2001年4月に当時の県立岡山病院、現在の岡山県精神科医療センターを受診し、2004年1月から、現在受診している関西医科大学附属滝井病院に行くようになりました。

病院というと、待合室が一番長く退屈な時間なのは、どの受診科目でも同じでしょう。はじめのうちは我慢をしていましたが、「こんな退屈な時間を過ごすのはイヤだ!」と思いはじめました。

2005年1月、北海道に行ったとき、gid_familia(札幌医科大学附属病院GIDクリニック通院者と家族の会)の人々との交流の機会を得ました。みんなの楽しそうな雰囲気にとてもうらやましさを感じるとともに、「こんな会をつくれば、待合室でも退屈しないかも」と思いました。そして、その6月、たまたま待合室で言葉を交わしたFTMの人との出会いをきっかけに、「受診者の会」を立ちあげ、それが「まんまるの会」となりました。

「まんまるの会」は、基本的には受診者同士の交流・情報交換・相談・懇親を目的とはしています。しかし、参加資格は「受診しようと思っている人」「受診しようかどうか迷っている人」など、受診者にとどまりません。これらの参加資格は、ジ

エンダークリニックの初診待ちをしている人や、若年層で親にカムアウトできていなくて受診すらできないといったこともあることを想定してつくりました。できるだけオープンな会にしながら、それでもみんなが安心して参加できるギリギリのバランスを、常に模索しています。

参加者は少ないときで10数人。多いときには40人を超すこともあります。その中には、手術やホルモン投与をしない選択をした人、戸籍の続柄変更をした人もいます。また、仕事もwebデザイナー、介護職、公務員などさまざまです。このようにさまざまな人が参加してくれているおかげで、たとえば中学生や高校生の参加があったときにも多様なロールモデルを提示することができます。また、必要なときには幅広い観点でのアドバイスもできます。また、「常連メンバー」にとっても、とてもいい情報交換の場です。

あるとき、常連メンバーのKさんが乳房切除術を受けるにあたって、どこがいいかについて、みんなで話しあったことがあります。「自分は関西医大で受けたい」「いや、症例数が少ないのでやめておけ。自分はM病院で受けた」「N病院もいいよ」。そんな話しあいのなかで、「やっぱり自分は関西医大で受ける」と、Kさんは決めました。結果、手術はうまくいったのですが、Kさんは「あのときの話しあいがあったから、もしも失敗したとしても自分は納得できたと思います」と、後に語ってくれました。

こんな「まんまるの会」ですが、例会そのものはきわめてゆるい感じです。始まって1時間ぐらいは、お互いの近況報告をします。関西ですから「ツッコミあり」は当たり前。その後はもちろん宴会です。お医者さんもできるかぎり時間をつくって来てくれます。というよりも、その姿は「まんまるの会」を楽しんでいるとしか思えません。おかげさまで、今や待合室は楽しいおしゃべりの場になりました。たまに「いま検査中なんで静かに!」って怒られますけどね。

(高校教員 土肥いつき)